

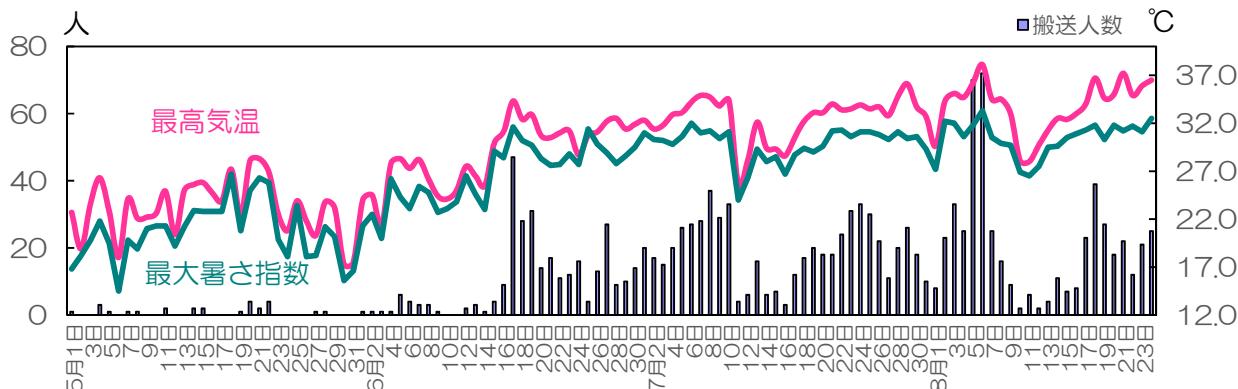
熱中症情報



衛生研究所の
インスタグラム
できました。
フォローお願いします！

＜搬送数＞

令和7年5月1日～8月24日までの搬送数（消防局データを使用）は、計1,431人（5月26人・6月293人・7月604人・8月508人）でした。8月6日は、最高気温が38.1℃で、搬送数が72人/日と、期間内で最多を記録しました。8月10日～12日は最高気温が30℃以下で、搬送数も減少しましたが、8月17日以降は、連日、最高気温が34.0℃以上で、搬送数は増加傾向です。



熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。

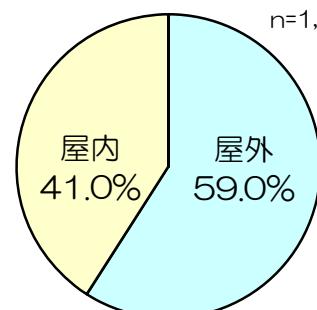
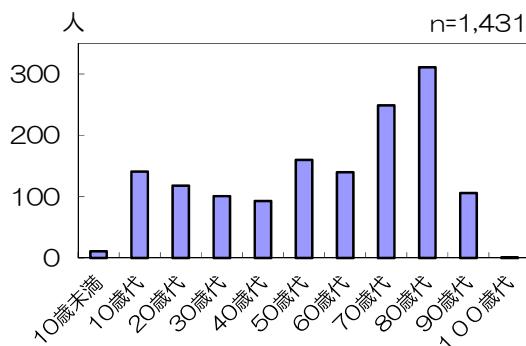
気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。

身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、熱中症の予防に努めましょう。

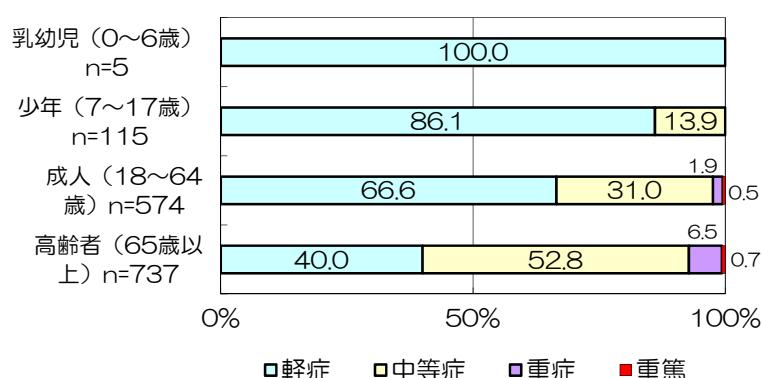
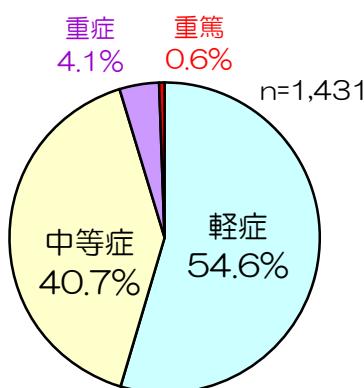
暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

＜年齢別＞ 80歳代が311人（21.7%）で最も多く、＜発生場所＞ 屋外59.0%、屋内41.0%で、次が70歳代で249人（17.4%）でした。

屋外での発生が多くなっています。



＜重症度*＞ 軽症54.6%、中等症40.7%、重症4.1%、重篤0.6%でした。高齢者で中等症以上の割合が60.0%と高い傾向が見られました。



*重症度の定義（横浜市熱中症情報）

※小数点以下第2位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。